

現代日本における職業

田中重人 (東北大学文学部准教授)

2年生対象：2017年度後期(4セメスタ) <火2>文学部 315 講義室

1 『講義概要』 記載内容

- ◆ 講義題目：現代日本における職業
- ◆ 到達目標：現代日本社会における職業と労働に関する諸問題を理解する
- ◆ 授業内容・目的・方法：職業・労働について、社会学を中心に、経済学・経営学・法学などにおけるとらえかたを概観したうえで、現代日本社会における問題について考えていきます。トピックとしては、労働統計の読みかた、雇用をめぐる法と政策、外部労働市場と内部労働市場、社会階層と社会移動、ジェンダーと労働などをとりあげます。授業においては、およそ2回に1回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また、法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課すこともあります。
- ◇ 教科書：なし
- ◇ 参考書：下記参照
- ◇ 成績評価の方法：授業中の課題と宿題によって評価する。
- ◇ 備考：受講者は、3セメスタ開講の現代日本論概論「現代日本における家族」を履修しているか、それと同等の知識を習得済みであることが望ましい。

2 授業の概要 (予定)

- (1) 第1講 労働統計(1) さまざまな働きかた [10/10]
- (2) 第2講 労働統計(2)：賃金と労働時間 [10/17]
- (3) 第3講 雇用をめぐる法と政策(1) [10/24]
- (4) 第4講 雇用をめぐる法と政策(2) [10/31]
- (5) 第5講 外部労働市場と内部労働市場 [11/7]
- (6) 第6講 企業の人事管理と労働者のキャリア [11/21]
- (7) 前回までの復習と進捗確認 [11/28]
- (8) 第7講 社会階層と職業 [12/5]
- (9) 第8講 社会移動と職業・教育 [12/12]
- (10) 第9講 ジェンダーと労働 [12/19]
- (11) 第10講 社会的不平等と職業 [1/9]
- (12) 進捗確認(2)と課題再提出 [1/16]
- (13) 課題返却と講評 [1/23]

※ []内の日付は、学期前のおおよその計画をあらわしているが、実際の授業の進行状況によって前後にずれることがある。

※ 11/7は外部からの参加者を受け入れるため、教室変更の可能性あり。11/14は休講。

3 参考書

- 厚生労働省 (2017) 『知って役立つ労働法：働くときに必要な基礎知識』 (2017年6月) <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/>. 【「法と政策」の回までに読んでおくこと】
- 労働政策研究・研修機構 (2010) 「特集:初学者に語る労働問題」『日本労働研究雑誌』597 <<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2010/04/>>. 【「法と政策」「労働市場」の回で一部の論文を使用】
- 犬塚先 (編)(2003) 『新しい産業社会学』 (改訂版) 有斐閣. 【「階層」の回で使用】
- 宮本太郎 (2009) 『生活保障』 岩波書店. 【「階層」「ジェンダー」の回の理解に有用】
- 嵩さやか・田中重人 (編)(2007) 『雇用・社会保障とジェンダー』 東北大学出版会. 【「ジェンダー」の回の理解に有用】

4 授業中の課題について

およそ2回に1回の割合で、授業時間内に課題を課す。その日の授業終了時に提出、次回に返却。内容や形式に問題がある場合は、書き直しを求めることがある。この課題遂行のため、携帯用通信機器や電子辞書の持ち込みを推奨。

返却した授業時間内課題は、捨てずに保存しておくこと。期末試験の日にまとめて再度提出。

なお、授業時間内の課題とは別に、宿題を出すこともある。この宿題も成績評価の対象となる。

5 進捗確認について

進捗を確認するための (大きめの) 課題を2度おこなう。

- 11/28: 範囲はその直前までの授業でとりあげた内容すべて。自筆メモ (A4用紙1枚) のみ参照可
- 1/16: 範囲は授業全体。何でも参照可 (電子機器類を除く)。

6 次回までの宿題

「労働力調査」について、つぎの項目を図書館の経済統計コーナー、2号館雑誌書架、またはインターネット「政府統計の総合窓口」<<http://www.e-stat.go.jp>> で調べ、A4用紙にまとめて次回授業時に提出

- (1) 1985年および2015年 (それぞれの年平均) について、15歳以上人口、労働力人口、労働力人口比率、完全失業者数、完全失業率
- (2) これら2年次それぞれの報告書の解説を読み、調査方法のポイントをまとめる。また、調査方法がどのように変わったかをまとめる。
- (3) これらの項目をどのような手順で調べたか。また調べる上で苦労した点。

7 講師連絡先

田中重人 (東北大学文学部日本語教育学研究室)

〒980-8576: 仙台市青葉区川内27-1 文学部・法学部合同研究棟2F

E-mail: tanakas2013@tsigeto.info

Homepage: <http://tsigeto.info/welcomej.html>

Blog: <http://b.tsigeto.info/school>

オフィス・アワーは定めていない。質問等がある場合はあらかじめ適当な時間に予約をとること。受講者への連絡は、授業においてまたは文学部2F教務係前の掲示板、学務情報システムによる。

年 月 日

現代日本論概論「現代日本における職業」 (田中重人)

受講登録フォーム

氏名：

学年：

学生番号：

所属 (文学部日本語教育学専修以外の場合)：

職業・労働・雇用などに関して興味のあること：

授業に関する要望 (もしあれば)

以下は採点用

宿題														
課題														
参加														
試験														

--	--

予備知識の調査：解答例

(1) 「失業率」 (unemployment rate) はどのようにして算出するか。

仕事に就いている人を「就業者」、仕事を探しているが仕事に就くことができていない人を「完全失業者」という。この完全失業者の数を、就業者・完全失業者の合計 (=労働力人口) で割った数値が「完全失業率」であり、一般に「失業率」と呼ばれる。

(2) 「解雇権濫用法理」とは何か。簡単に説明せよ。

企業が労働者を解雇するには、客観的に合理的な理由があつて、社会通念上相当とみとめられなければならないとする法律上の原則。1960年代までに判例を通じて確立してきたもので、2003年の労働基準法改正によって条文中に盛り込まれた。現在は労働契約法の第16条に規定されている。

(3) 「内部労働市場」 (internal labor market) と「外部労働市場」 (external labor market) のちがいについて説明せよ。

労働の売り手 (労働者) と買い手 (企業) が取引をおこなう場が「労働市場」である。「内部労働市場」とは、この取引が、すでにその企業に雇われている労働者に限定しておこなわれる場合をいう。この限定なしに取引をおこなうのが「外部労働市場」である。

(4) 「人的資本」 (human capital) とは何か。簡単に説明せよ。

個人の知識・技能・体力など、仕事をこなすのに必要な能力のこと。学習や訓練などの「投資」によって増やすことができるので「資本」と呼ばれる。

(5) 「ホワイトカラー」 (white-collar) とは何か。またそれと対になることばは何か。

事務職・管理職・専門職などの頭脳労働またはそれに従事する人のこと。肉体労働を表す「ブルーカラー」 (blue-collar) と対になることば。

(6) 「性別役割分業」 (sexual division of labor) とはどのようなものか。簡単に説明せよ。

性別による役割の違いに沿って分業がおこなわれること。特に、「男は仕事、女は家庭」というかたちでの分業を指すことが多い。